

日本の観測所めぐり (1)

文部省 緯度観測所

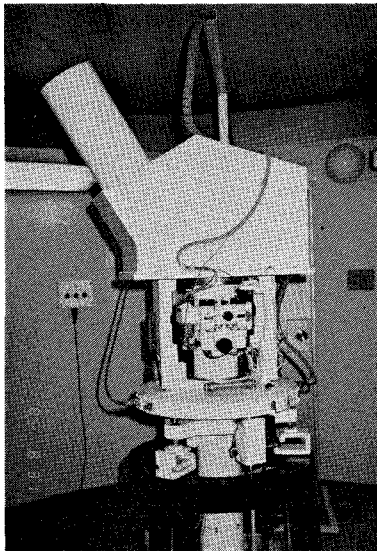
位置 (〒023) 岩手県水沢市星が丘町 2-12
電話 0197-24-7111
付属施設 江刺地球潮汐観測施設
(〒023-17) 岩手県江刺市伊手字阿原山 1-3

道 順

緯度観測所
東北本線水沢駅から西南西 1.2 km
東北新幹線水沢江刺駅から西南西 5.6 km
東北自動車道水沢インターチェンジから 5.4 km
江刺地球潮汐観測施設
緯度観測所から直線で東約 17 km

沿 革

緯度観測所は、緯度変化の国際共同観測を行うため
1899年(明治32年)に北緯39度8分の線上に他の5ヶ
所の観測所と共に選ばれ、文部省直轄の研究所として地球
自転運動の揺らぎの観測と研究を続けてきた。創設間
もない1902年(明治35年)に木村 栄初代所長は、ど



の観測所の緯度にも共通の年周変化があることを見出し
た。これがZ項と呼ばれるものであるが、今日ではその
本質が地球の流体核の運動に起因していることが突き止
められている。Z項の発見を契機に気象及び地震観測が
開始され、一方では、複数機による緯度観測を行うと共に、
時刻観測による地球自転運動の観測が行われてきた。創設以来継続してきた国際共同緯度観測事業は1962
年(昭和37年)に国際極運動観測事業に拡大改組され、
当所はその中央局を担当して今日に及んでいる。1967年
(昭和42年)には、地球規模の変形が地球回転の乱れと
密接に関連しているとの認識に立って地球物理観測研究
部を設置し、傾斜、歪、重力等の観測に着手した。

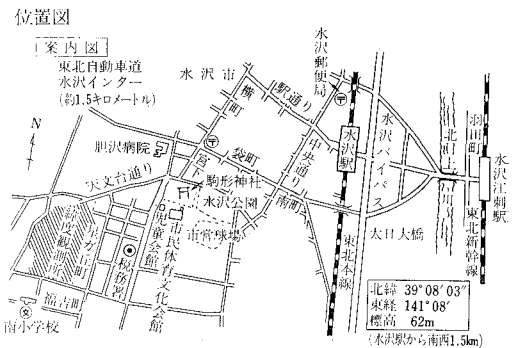
天文学及び地球物理学の総合的視野に立つ研究の拡大
と長基線電波干渉法等の新計測技術の出現によって、緯
度観測所は新しい時代を迎えつつある。

主要観測装置

天文観測関係: 眼視天頂儀, 浮遊天頂儀, 写真天頂筒,
坪川式自動アストロラープ, 人工衛星ドップラー追跡装
置, セシウム原子時計, 時計比較装置, ロランC受信機
地球物理観測関係: 気象環境モニタリングシステム,
地震計, 固定型重力絶対測定装置, 可搬型重力絶対測定
装置, 水管傾斜計, 石英管伸縮計, ボアホール式歪計,
重力変化計 (アンダーライン: 江刺地球潮汐観測施設)

見学について

緯度観測所 毎週火曜日
郵便又は電話で庶務部庶務課へ直接申
し込むこと。



昭和60年12月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂松本印刷
定価450円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422) 31-1359 振替口座 東京 6-13595